

loveCOMMONS KAMAEARI

フォトエッセイ



TSUTSUI HAJIME

TSUTSUI TAKAHISA

OOMAE KOTARO

1
Vol.

ARTTRY

||

YOU

+

LOVECOMMONS

||

SHOW WINDOW

高さ 250cm 幅 155cm 奥行 70cm の空間をあなたの作品で飾ってください。絵画、映像、立体、衣装、グラフィック、その他ジャンルは自由です。ただし、オリジナル作品である事、誰かに迷惑をかける事を約束事とします。展示期間は最長 2 週間。登録は [03-3802-0258] [info@lovecommons.jp] にて受付しております。あなた様のご応募お待ちしております。

LOVECOMMONS

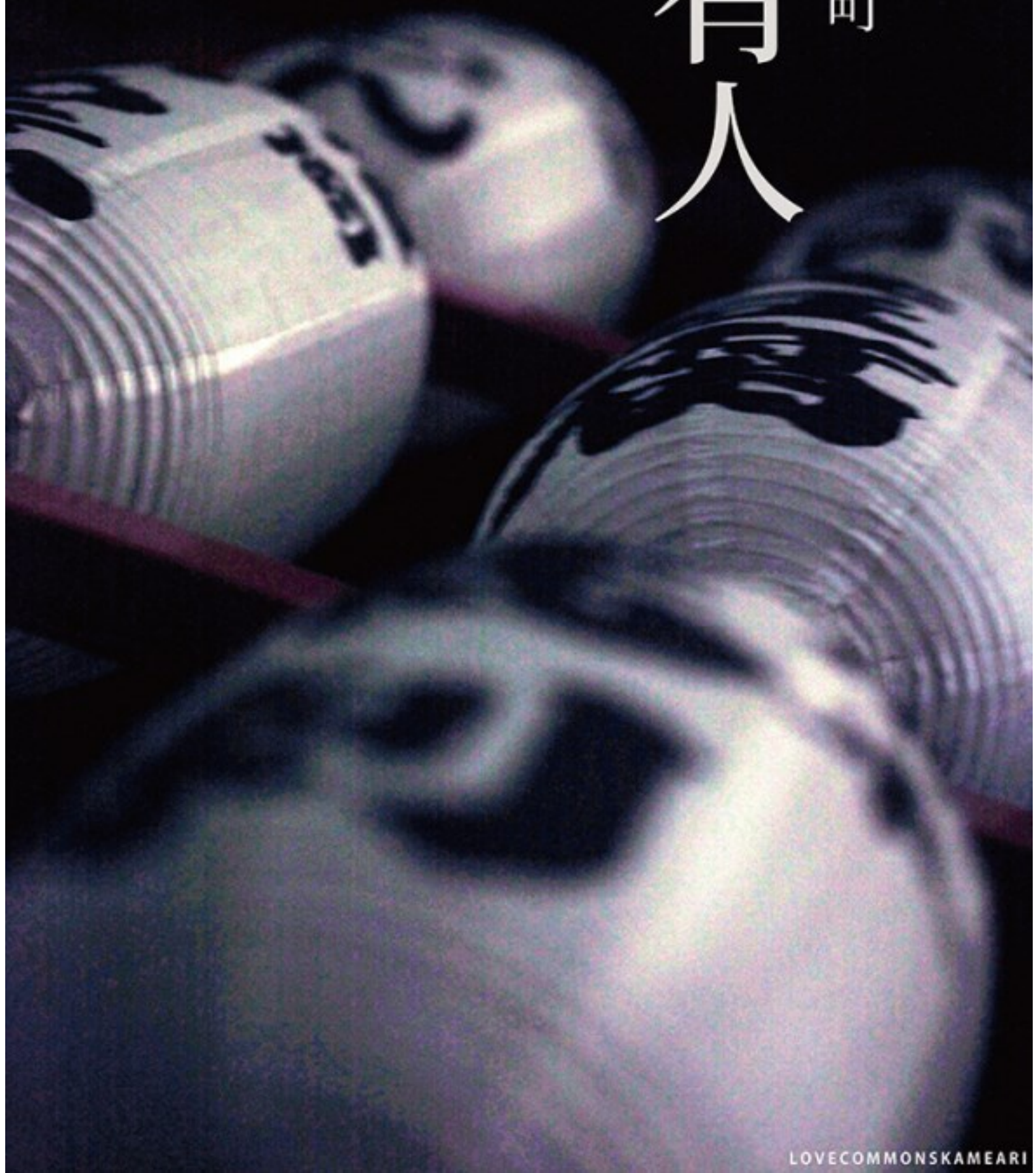


Zazzle

<http://www.zazzle.co.jp/lovecommons>

東京下町

亀有人



葛飾伊勢屋

佐藤尚吾



03-3662-4224

和菓子司葛飾伊勢屋の2代目・佐藤尚吾さんは、1999年、葛飾のお土産品として、こちら葛飾区龜有公園前派出所でおなじみの「両さんどら焼き」を製造する。全国の両さんファンをはじめ、葛飾へ訪れる人々に喜ばれ、注文が殺到。1日3000個売れるようになった。

龜有に来た人にもっと楽しんでもらいたいと、2006年、龜有駅北口に両さんの銅像を作る。両さん像は今では14体となり、街の人々や観光客など多くの人々に親しまれ、愛されている。

「龜有を多くの人々に知ってもらいたい」と語る佐藤さんは今日も走る。

うなぎ川龜

仲林和夫



03-3401-3191

2014年 創業70年を迎える老舗のうなぎ・佃煮専門店「川龜」店主・仲林和夫さん。ご子息である4代目・孝行さんと共に伝統の味を守り続けています。孝行さんは、「親父の伝統の味を受け継ぐ為に、今はひたすら修行中です。」と、ひたむきな姿勢で邁進している。

龜有銀座商店街振興組合の理事長も務める仲林さんは、商店街の活性化と地域交流の為に、行事を年に6回開催しているとの事。

「昔、子供会や町会で交流をとっていた者たちと今でもつながって協力し合っているから出来るよね。」と優しい笑顔で語る。65歳になった今も元気に、伝統の味をお客様に提供している。



01-3561-1703

一直時計店

古谷昌弘

昭和7年創業、80年目を迎える一直時計店店主の古谷昌弘さん。昭和32年、古谷さんが27歳の時初めて「ふれあい祭り」を企画する。以来、葛飾りや駅前の大道芸など様々なイベントを企画する。平成7年より、福島県と地域間交流を始め、一度企画で関わった人たちとはつながりが深くみんな観てみたいだと言う。

「交流するならば言いたいことは互いに言い合っべきだよ。心を聞いて付き合うのが人間本来のあり方だと思ってる。みんなで協力しないとね。ひとりじゃ何もできないよ。」と、優しい笑顔で語る。エネルギーが豊富な古谷さんは、今年で80歳になる。



01-3561-0294

呉服のむさし屋

小河原淳一

創業大正13年の老舗呉服屋むさしや3代目・小河原淳一さん。

亀有みこし協議会会長でもある小河原さんは、毎年9月に開催されるみこし祭りを大盛況に導いている。青年部を再結成したり、地域行事のサポートを行うなど亀有の活性化に力を入れている。

「青年部には亀有在住以外の方にもお手伝いしてもらっています。人と人の交流や、みんな顔なじみで安心感があるとかって、商店街の良さなんじゃないかな。」と語る。

店舗では、着物や小物・お祭り用品も販売している。店先には、立派な亀が！

Dear Kameari Father & Mother

亀有にはたくさんの父や母がいる。

私自身の両親のように、うれしい時は一緒に悲しみ、つらい時は励ましてくれた。

そしてその両親は亀有そのものの父であり母でもあった。

子どもの頃、環七も無く、駅前の再開発も行われていない昔の亀有、

アニメやドラマに出てくるようなこちゃこちゃしているけど、典型的な下町、活気あふれる商店街が自分を育ててくれた。

典型的なガキ大将だった自分の家の前にはいつも大勢の子どもたちが集まっていた。

そして、その大勢の子ども達をやさしく見つめ、気さくに声を掛けてくれた酒屋のおにいさん。

たくさんのビールケースを一度に運ぶ力強さ、汗だくになって休むことなく働く姿に憧れていた。

その後、酒屋のおにいさんは酒屋のチェーン店の経営者になっていた。

時間があるとうちに来て親父と酒を酌み交わし、楽しそうに語り合っている姿を見るのが好きだった。

自分の人生の節目では一緒に喜び、励ましてくれたおにいさんを本当に逞しく思っていた。

あれから40年が過ぎ、今は第一線を退いたけど、その間、商店街のため、神社のため、地元発展のために全力を尽くしてきた。

50歳を過ぎた今でもまだ自分を見守ってくれるおにいさんに心から感謝している。

あなたの目に僕はどんなふうに映っているのだろう。僕の目には酒屋のおにいさんこと山田国男さんが亀有の父に映っているのだ。

亀有はいろいろな父に支えられ、今日まで発展してきた。そしてこの発展はこれからも止まらない。

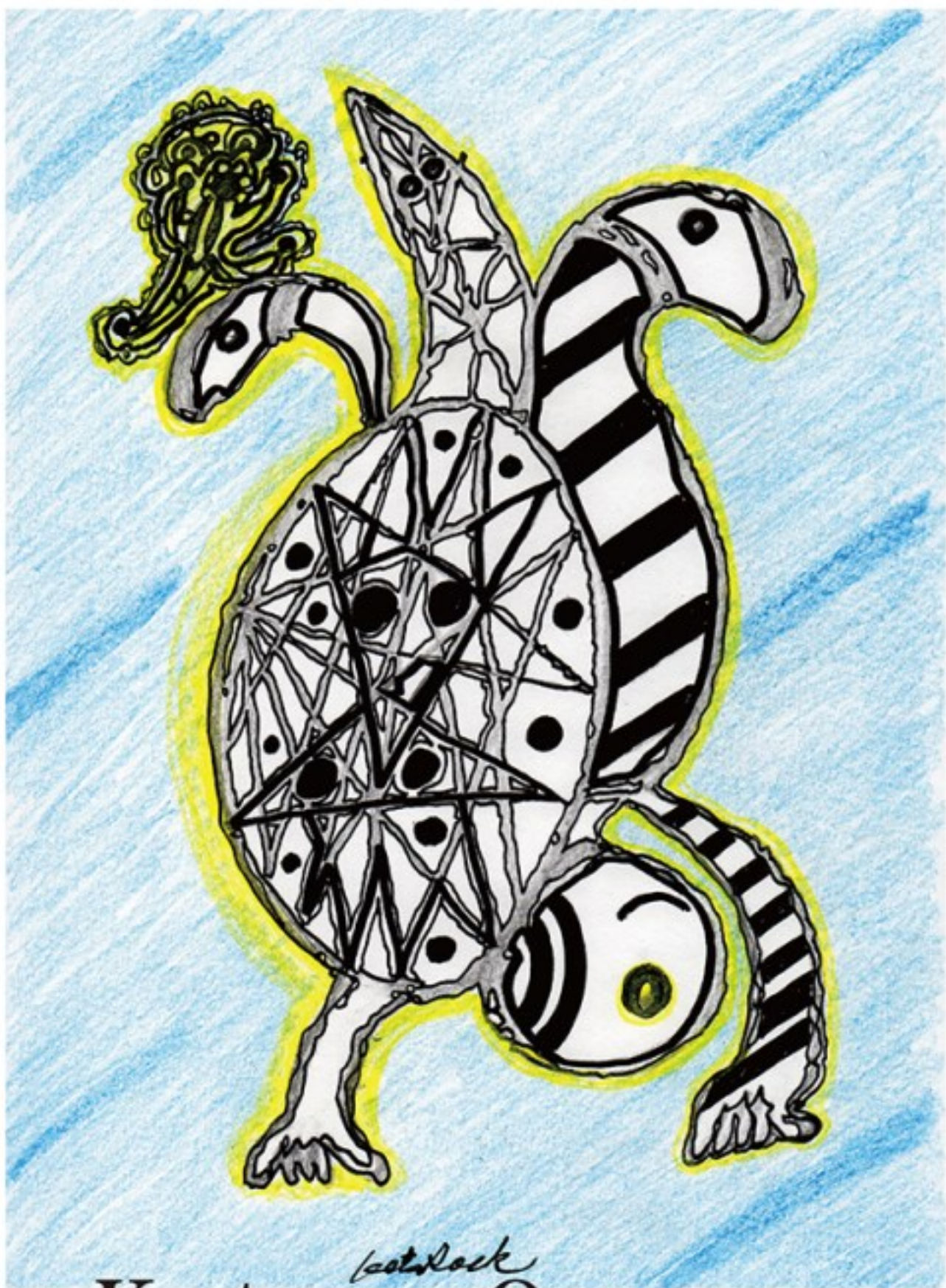
何故なら亀有にはまだまだたくさんの父や母がいる。そして、これから僕を始め亀有の父になる仲間がたくさんいるからだ！

筒井たかひさ

筒井たかひさ

1962年4月13日生まれ。日本大学理工学部建築学科卒業。現在、(株)筒井工務店代表取締役を務める。地域活動に従事する傍ら、保護司、若狭区青年委員長など、子供達の明るい未来作りにも貢献。平成21年初当選、自由民主党議員団副幹事長。文教委員会副委員長。総務委員会副委員長。危機管理対策特別委員会委員長歴任。

「亀有には亀がいてほしい。」陽気に踊る亀。亀の踊りに誘われ踊る街の人々。明るくてあたたかい街。
子供の頃からそんな想像をしていた。大人になって亀有を訪れた。いた。亀がいたんだ。
思わずガッツポーズをした。商店街の店先で出会った亀は、何もかも見透かしたかのように微笑んでくれた。
最高の街だ、亀有。



kotarock
Kotaro Oomae

Title : KAME
Draw & Word : Kotarock
Art Collection : vol.1



TSUTSUI HAJIME ART Collection vol.1

「亀有は嫌いだ。」そんな親父の言葉を覚えている。あの時、僕は小学生。
でもね、その言葉の響き感情がアヤシイ親父。
「どうして嫌いの？」本当は理由なんて興味ないのさ、とにかく触れたかっただけさ。
「色々なモノを捨てられた。」何を誰が捨てたのか？今更だけど気になるが、その時は、聞く気なし。ふふふ。
結局、僕は大人になるにつれ、親父は「亀有が嫌いじゃない。」って理解できた。
あるよね、大人になる道のりで真実を知ることになる子供の頃から知ってる物事。
ところで親父なんだけどさ、僕が成人する前に死んじゃった。
僕は聞きたかった言葉を聞けてない。親父も言いたい言葉を言えなかった。
だから、僕が親父の代わりに言うことにする。
「亀有が好きだ！」「亀有が好きだ！」「亀有が好きだ！」「亀有が大好きだ！」

300年後のJAPANESE

あなたのメッセージを残しませんか？

この世界には、語り継がれず消えていった物語がある。
300年後のJAPANESEにあなたの持っている
物語を語りかけてほしい。時を超えて未来に繋ぐメッセージ。
あなたの参加、お待ちしております。

info@lovecommons.jp

PRODUCE BY
LOVECOMMONS

ゴト"モカイガ"

キヨウヲツ

城北信用金庫 南千住支店 2014年5月24日・6月21日・6月28日【時間】13:00 - 15:00
【対象】2歳 - 14歳 【お問い合わせ】03-3882-0258 (森山)

第14回

全日本国民的美少女
コンテスト

応募期間
2/13 - 5/12
全日本





LOVECOMMONS KAMEARI



LOVE COMMONS CKAMEARID